

大ナゴヤ大学学長が経験する「社会起業」とは？

今回は、大ナゴヤ大学が実際の大学と手を組んで行っている共同研究「実験室プロジェクト」についてご紹介します。

私たちの活動は「大学型街づくりモデル」を展開することにより、身近な「地域コミュニティの再生」や「地域資源の発掘」の機会を生み出すプラットフォームづくりを目指すのですが、「地域の企業・行政と市民をつなぐプラットフォーム」としての価値を提供するためには、大ナゴヤ大学の活動自体をひとつのメディアと定義し、活動そのものを社会に伝え、意義などを検証していく必要があります。

活動そのものを伝える、という点では、過去に行わ

効果の検証とフィードバック

⑦ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

共同研究プロジェクト

地域の大学と連携して

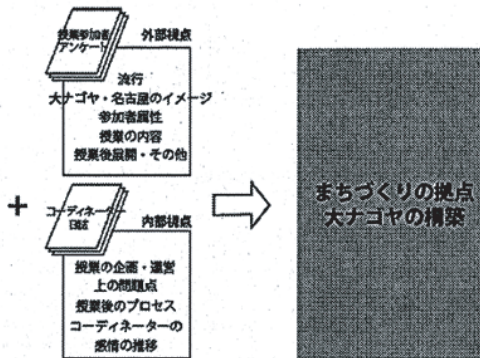
ただ、これだけでは、将来、小学校や中学校など地域へのユニークな先生の紹介・派遣、書籍化・データベース化などへと展開していく可能性を持った貴重なアーカイブであるといえるでしょう。

しかし、それだけでは単に「イベントとしてのまちづくり」に終始してしまうことになりかねません。多種多様な既存のイベント団体やフォーラム、まちづくり活動と比較しても少しは、名古屋工業大学の大学に研究素材として門

■調査方法

大ナゴヤ大学としての活動

定期的に行われる打ち合わせ
各種イベントへの参加
補講・ゼミ



「NPO法人 大ナゴヤユニバースィティ・ネットワーク」学長・理事長 加藤 慎康

